

普及活動検討会実施報告書

気仙沼農業改良普及センター
 実施月日：平成30年2月14日
 実施場所：気仙沼合同庁(3階オーブホール)

1 検討内容

No	検討項目
1	平成29年度プロジェクト活動実績報告
①	No3「小泉地区の復興を牽引する法人経営体の生産安定化」
②	No5「ビーンズくらぶの活動安定化による入谷地区の都市と農村の交流活性化」
③	No1, No2, No4の活動状況(概要)報告
2	平成30年度普及指導計画
①	平成30年度普及指導方針
②	平成30年度普及指導員活動計画
	プロジェクト課題No1～No5の概要

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	3	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	1
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

平成29年度プロジェクト活動実績報告

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
No3 小泉地区の復興を牽引する法人経営体の生産安定	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 販売ルート(出荷先)は・・・ 今年は単価が安い。収量は増加しているが収益は伸び悩んでいる。 単価低下の要因は如何。小売りでは高く売られている。 競争が激しくなることへの対策は？。 	<ul style="list-style-type: none"> 仙台市場, 石巻市場及び一部直営直売所 品質向上とともに今後市場評価が高い品種導入も検討してゆく。 競合産地の存在。寒さもあり(生食の消費)販売伸び悩み。 品種。味が良く生産性の高いTTM120の導入。
No5 ビーンズくらぶの活動安定化による入谷地区の都市と農村の交流活性化	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 原料大豆が不足しているのであれば地域内で生産された大豆の使用も検討されたい。 農作業(豆蒔き・収穫)体験参加は同一参加者(リピーター)か。体験は有料なのか。体験は有料なのか。 豆腐の価格は他より高く、美味しさと差別化が必要。こだわりを伝え、売ることも必要。 ベジタリアン(外国人)にも安心して提供できるこの様な点でも差別化が必要。豆腐加工の継続を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで生産した大豆の使用を第一に考えたい。気仙沼産大豆利用については今後検討したい。 違う人たちの参加。農作業体験参加は無料。(豆腐, 干柿作りは体験料を頂き豆腐・干し柿連の加工品のお土産付き) 国産豆は高く, 企業が販売するものも@150円程してる。 中山間地域の活性化は普及センターとしても取り組んでいる。都市と農村の交流は市・町とも連携し進めて行く。
No1, 2, 4 プロジェクト課題の概要説明	3.9	<p>No1: 1年目から安定している。来年の成果に期待する。</p> <p>No2, No4: ほ場土壌の安定化が課題か。</p> <p>No4: 復旧農地のねぎの安定生産を是非確保して欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥, 緑肥施用等有機物施用し土作りを進める。排水対策について関係機関と連携し対応及び支援を継続する。 ねぎの生産性向上, 安定生産に向け関係機関と連携の本支援してゆく。

平成 30 年度普及指導計画

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
平成 30 年度普及指導方針 について	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を的確に捉えていると思われる、計画の確実な実行、安定経営に向けた基盤作りの支援を進めて欲しい。 ・農業の復興と経営の発展支援を合わせて支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者、営農組合及び法人等多様な担い手を対象として復興、経営発展に向け継続した支援を展開する。
平成 30 年度プロジェクト課題について			
<p>No1 気仙沼階上地域の新たな農業の展開</p> <p>No2 集落営農組織の経営体質強化による地域営農体制の構築</p> <p>No3 環境モニタリング活用及びIPM導入によるいちごの収量向上</p> <p>No4 食用桑苗木生産技術習得による特産品の定着</p> <p>No5 復旧農地でのねぎ安定生産技術の確立</p>	3.7	<p>No1：規模拡大が予定されているが労力確保は大丈夫か？ ：高齢化により水田管理が課題となっている。</p> <p>No2：ほ場整備工区内に生活雑排水の流入はないのか。</p> <p>No3：課題対象全員で IPM を実証しようとするると成果判断となる比較対象はどうするのか。 ：成果の検討はいつ行うのか、時間をおかず検討した方が良いのでは。</p> <p>No4：開発予定のパッケージとはどのようなものか。 大唐桑はなかなか広まらない Facebook 等で情報発信しては。</p> <p>No5：ねぎの栽培・生産振興上、一番の問題となっているのは畑の土壌条件なのか。 管理作業遅延による収量減。労働力確保への指導も必要では。収量が低いと意欲も失われるのでは。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用は主にロコミで広がり確保しつつある。部門(作業)リーダーとなる者を育成し規模拡大への対応を考えている。 ・事業等を活用し担い手組織を主体への集積を支援する。 ・流入しないよう排水分離施工されている。 ・初年目の実証は 4 人、慣行栽培も行いながら成果判断を行い 2 年目以降定着・波及を目指す。 ・管理作業、生育の節目で検討会を実施しながらその後の管理に繋げて行けるようにする。 ・紙で出来た筒状(粉チーズ)の容器。30 代の若い会員もいるので Facebook も使っているので積極的な情報発信に取り組まれるよう助言したい。 ・堆肥が確保できればそれを施用する。出来なければ緑肥を栽培し、鍬込みを進めて行きたい。 ・現在は秋冬(収穫)ねぎが主体となっているが、初夏～秋(収穫)ねぎの作型の導入支援しながら作型を分散で対応。
その他 御意見、御要望やお気づきの点がありましたら記載下さい。		<ul style="list-style-type: none"> ・課題が豊富で時間が足りないと感じた。平成 29 年度活動実績と平成 30 年度の活動計画を分けて検討してみても・・・。 ・普及指導員の方々の多大な指導を今後もお願いします。 	

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する